

対象	岩手大学農学部森林学科3年生（女性）
期間	令和4年8月10日（水）～28日（日） ※実質15日間
仕事 内容	<p>▼個人向けプログラム指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/11 10:00～20:00「あばれる1DAY」 ※こども対象プログラム ・8/14 10:00～17:00「親子で挑戦！夏休みひんやり溪流ウォーク」 ・8/15 9:30～16:30「キッズクラフトフェスタ」 ・8/20 13:00～20:00「親子でキャンプ&シュノーケリング」 ・8/27 9:30～14:00「森のカルチャー教室（ハーブビネガー）」 <p>▼団体向けプログラム指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/21 礼拝子ども会「草木染体験」 ・8/26 半田小学校4年生「溪流ウォーク」 <p>▼エコハウス内の展示制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の生態展示のメンテナンス作業 ・カメに関する展示制作 <p>▼里山保全作業（木の伐採補助、大池のヒシとり、生き物調査など）</p> <p>▼受付・来館者対応業務</p> <p>▼プログラム準備作業（クラフトキット作成、事務書類作成など）</p>
活動の 様子	
終了後の インターン レポート より抜粋	<p>▼インターン先として柏崎・夢の森公園を選んだ理由</p> <p>大人になっても思い出せる公園だったから。さらに、自分がその場の風土を理解した状態で環境教育に関わるなら、どう関わるのか考えたかったから。</p> <p>▼インターンを通して得られたもの</p> <p>記憶にある昔の公園の様子と、現在の様子の違いや変化を体感した。いくつかのプログラムを通して、親子とのコミュニケーションの取り方を多少つかめた気がするし、新しく森のことに関心を持ってもらうための工夫と、事例を知ることができたことでひとつ悩みが解決したようにも思う。</p> <p>▼心に残っているスタッフの言葉・忘れられないスタッフの行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育は社会運動である ・お客さまく参加者（同志） <p>▼柏崎市における柏崎・夢の森公園の価値はなんだと思いますか？</p> <p>柏崎が自然を売りにする場合の拠点となり得ることだと思う。また、時代が進み、</p>

例えば 50 年後も存続していれば、生態系のタイムカプセル的機能を果たしているかもしれないと思う。

▼職場の雰囲気の特徴

合理と倫理のバランスがとれていて居心地が良かった。発言をしやすい環境ができてから新しい活動が作りやすいのだろうと思った。

▼自分の将来や就職先に影響を与えた自然体験 ※子どもの頃からで OK

- ・木登りをして木の実を食べていたこと
- ・どんぐりを集めて、自分で選別して、こっそりそのまま食べていたこと。
- ・自然体験とは言えないかもしれないが、保育園児のときに毎週図書館に行っていたことは好奇心や興味の観点から影響があったと思う。
- ・小学校にヤギがいたこと。
- ・近所や家の庭でタヌキが死んでいたこと。
- ・地域の子供会で夢の森を利用したときに草笛を教えていただいたこと。当時はできなかったが時間をかけて技を磨くこととなった。
- ・夢の森や近所の山など、遊べるヤマが存在していたことで森や山を遊べる場所として認識できていたこと。

▼夢の森公園（柏崎市）で働くとしたらやってみたいことはありますか？

道の駅のような性格がもう少しあれば知名度が上がるかもしれない。
(休憩できる場所)

▼大学生に公園を利用してもらうにはどんなことをしたらよいか？

管理できる範囲内にバーベキューや宿泊ができる区画を作る、県 or 地方のインタープリターを目指す大学生のための研修会の定期開催。

▼スタッフが公園にいる良さはなんだと思いますか？

スタッフが公園にいることの良さは、現代的な生活を送る中で新しく森に関わろうとする人にとって森へのハードルが低くなることだと思う。多くの人々が里山のような環境で生活していた時代とは異なり、生活の中に森との接点を持たなくなる人は増えたのではないかと思う。また、異年齢の遊び集団というものが少子化や最近の風潮によりなくなってきているので遊びとしても森から遠ざかっている傾向にあるため、遊び方を知る環境は少なくなっている。このような状態のまま森という場所に来た時、楽しみ方が分からなければ楽しくない、苦だと感じる人がいるのも当然のことだと思う（全くの異世界として楽しむ人もいるかもしれないが）。スタッフがいることにより、大人子ども関係なく楽しむきっかけとなるような遊び方・関わり方を言葉で直接伝えることができる。森へ関わるハードルを低くすることができ、スタッフのいない公園よりも森林環境教育の効果が高くなるだろうということが、スタッフが公園にいる良さではないかと思う。